

## スタートアップ ガイド

この章では、ASA 1000V の使用を開始する方法について説明します。このマニュアルは、ASDM モードのコンフィギュレーションを対象としています。ここでは、ご使用のコンフィギュレーションで ASDM と ASA 1000V CLI を使用できます。VNMC モードを使用している場合は、VNMC のマニュアルを参照してコンフィギュレーションを実行してください。

配置の一環として、ASDM アクセスの管理インターフェイスを事前設定します。この章では、CLI の使用を開始するのに役立つ情報が含まれます。

この章は、次の項で構成されています。

- 「ASA 1000V の配置と電源投入」(P.2-1)
- 「ASA 1000V コマンドライン インターフェイスへのアクセス」(P.2-2)
- 「ASDM の起動」(P.2-3)
- 「ASA 1000V ファイル ストレージ」(P.2-7)
- 「コンフィギュレーションの処理」(P.2-7)
- 「接続に対するコンフィギュレーションの変更の適用」(P.2-10)

## ASA 1000V の配置と電源投入

ASA 1000V の配置と電源投入の詳細については、『Getting Started Guide』を参照してください。

## 配置後のデフォルト設定

ASA 1000V を配置すると、ASDM を使用して、Management 0/0 インターフェイスへの接続を可能にする多数のパラメータをプリセットできます。一般的な構成には次の設定があります。

- Management 0/0 インターフェイス：
  - 名前指定「management」
  - IP アドレスまたは DHCP
  - セキュリティ レベル 0
  - 管理専用
- デフォルト ゲートウェイを介した管理インターフェイスから管理ホスト IP アドレスへのスタティック ルート

- デフォルト ゲートウェイを介した管理インターフェイスから VNMC IP アドレスへのスタティック ルート
- ASDM サーバの有効化
- 管理ホスト IP アドレス用の ASDM アクセス

次の設定を参照してください。

```
interface Management0/0
  nameif management
  security-level 0
  ip address ip_address
  management-only
  route management management_host_IP mask gateway_ip 1
  route management VNMC_IP mask gateway_ip 1
  http server enable
  http managemnt_host_IP mask management
```

## ASA 1000V コマンドライン インターフェイスへのアクセス

初期設定またはトラブルシューティングを行うには、VMware vSphere クライアントにより提供される仮想コンソールから CLI にアクセスします。その後、[第 17 章「管理アクセスの設定」](#)に従って Telnet または SSH を使用して、CLI リモート アクセスを設定できます。

### 手順の詳細

- ステップ 1** VMware vSphere クライアントで、[Home] > [Inventory] > [Hosts and Clusters] を選択し、配置済みで電源を投入した ASA 1000V インスタンスを選択します。
- ステップ 2** 右側のペインで、[Console] タブをクリックします。



- ステップ 3** 次のプロンプトが表示されます。  
hostname>  
このプロンプトは、ユーザ EXEC モードで作業していることを示します。ユーザ EXEC モードでは、基本コマンドのみを使用できます。
- ステップ 4** 特権 EXEC モードにアクセスするには、次のコマンドを入力します。  
hostname> **enable**

次のプロンプトが表示されます。

```
Password:
```

**ステップ 5** プロンプトに対して、イネーブル パスワードを入力します。

デフォルトではパスワードは空白に設定されているため、Enter キーを押して先に進みます。イネーブルパスワードの変更については、「[ホスト名、ドメイン名、およびパスワードの設定](#)」(P.5-1) を参照してください。

プロンプトが次のように変化します。

```
hostname#
```

設定以外のすべてのコマンドは、特権 EXEC モードで使用できます。特権 EXEC モードからコンフィギュレーション モードに入ることもできます。

特権モードを終了するには、**disable** コマンド、**exit** コマンド、または **quit** コマンドを入力します。

**ステップ 6** グローバル コンフィギュレーション モードにアクセスするには、次のコマンドを入力します。

```
hostname# configure terminal
```

プロンプトが次のように変化します。

```
hostname (config) #
```

グローバル コンフィギュレーション モードから ASA 1000V の設定を開始できます。グローバル コンフィギュレーション モードを終了するには、**exit** コマンド、**quit** コマンド、または **end** コマンドを入力します。

## ASDM の起動

次の 2 種類の方法を使用して ASDM を起動できます。

- **ASDM-IDM Launcher (Windows のみ)** : ランチャは、任意の ASA 1000V IP アドレスへの接続に使用できる Web ブラウザを使用して、ASA 1000V からダウンロードされるアプリケーションです。他の ASA 1000V に接続する場合、Launcher を再度ダウンロードする必要はありません。ランチャでは、ローカルにダウンロードされたファイルを使用してデモ モードで仮想 ASDM を実行することができます。
- **Java Web Start** : 管理する ASA 1000V それぞれに対して Web ブラウザで接続して、Java Web Start アプリケーションを保存または起動する必要があります。任意で PC にアプリケーションを保存できます。ただし、ASA 1000V IP アドレスごとにアプリケーションを分ける必要があります。



(注)

ASDM では、管理のために別の ASA 1000V IP アドレスを選択できます。Launcher と Java Web Start アプリケーション機能性の違いは、主に、ユーザがどのように ASA 1000V に接続し、ASDM を起動するかにあります。

この項では、まず ASDM に接続する方法について説明します。次に Launcher または Java Web Start アプリケーションを使用して ASDM を起動する方法について説明します。この項は、次の内容で構成されています。

- 「[ASDM への初回の接続](#)」(P.2-4)
- 「[ASDM-IDM ランチャによる ASDM の起動](#)」(P.2-5)
- 「[Java Web Start アプリケーションによる ASDM の起動](#)」(P.2-5)

- 「デモ モードでの ASDM の使用」(P.2-6)



(注)

ASDM では複数の PC やワークステーションでそれぞれブラウザ セッションを開き、同じ ASA 1000V ソフトウェアを使用できます。1 つの ASA 1000V で、ASDM 並行セッションを 5 つまでサポートできます。PC またはワークステーションはそれぞれ、指定した ASA 1000V のセッションを 1 つだけブラウザで実行できます。

## ASDM への初回の接続

ASDM-IDM Launcher または Java Web Start アプリケーションをダウンロードするために、ASDM に最初に接続するには、次の手順を実行します。

**ステップ 1** ASA 1000V ネットワーク上のサポートされる Web ブラウザで、次の URL を入力します。

```
https://interface_ip_address/admin
```

*interface\_ip\_address* は ASA 1000V の管理 IP アドレスです。

ASDM の実行要件については、お使いのリリースの ASDM リリース ノートを参照してください。

ASDM の起動ページには、次のボタンが表示されます。

- Install ASDM Launcher and Run ASDM (Windows のみ)
- Run ASDM
- Run Startup Wizard

**ステップ 2** Launcher をダウンロードするには、次の手順を実行します。

- [Install ASDM Launcher and Run ASDM] をクリックします。
- ユーザ名とパスワードを入力し、[OK] をクリックします。工場出荷時のデフォルト設定の場合、これらのフィールドを空白のままにしておきます。HTTPS 認証が設定されていない場合、ユーザ名はなしで、デフォルトが空白である **イネーブル** パスワードを使用して、ASDM へのアクセスを取得できます。HTTPS 認証がイネーブルの場合、ユーザ名と関連付けられたパスワードを入力します。
- インストーラを PC に保存して、インストーラを起動します。インストールが完了すると、ASDM-IDM Launcher が自動的に開きます。
- Launcher を使用して ASDM へ接続するには、「[ASDM-IDM ランチャによる ASDM の起動](#)」(P.2-5) を参照してください。

**ステップ 3** Java Web Start アプリケーションを使用するには、次の手順を実行します。

- [Run ASDM] または [Run Startup Wizard] をクリックします。
- プロンプトが表示されたら、PC にアプリケーションを保存します。保存する代わりに任意で Java Web Start アプリケーションを開くことができます。
- Java Web Start アプリケーションを使用して ASDM へ接続するには、「[Java Web Start アプリケーションによる ASDM の起動](#)」(P.2-5) を参照してください。

## ASDM-IDM ランチャによる ASDM の起動

ASDM-IDM ランチャから ASDM を起動するには、次の手順を実行します。

### 前提条件

「ASDM への初回の接続」(P.2-4) に従って、ASDM-IDM Launcher をダウンロードします。

### 手順の詳細

- 
- ステップ 1** ASDM-IDM Launcher アプリケーションを起動します。
- ステップ 2** 接続する ASA 1000V IP アドレスまたはホスト名を入力するか選択します。IP アドレスのリストをクリアするには、[Device/IP Address/Name] フィールドの横にあるゴミ箱アイコンをクリックします。
- ステップ 3** ユーザ名とパスワードを入力し、[OK] をクリックします。
- 工場出荷時のデフォルト設定の場合、これらのフィールドを空白のままにしておきます。HTTPS 認証が設定されていない場合、ユーザ名はなしで、デフォルトが空白である **イネーブル** パスワードを使用して、ASDM へのアクセスを取得できます。HTTPS 認証がイネーブルの場合、ユーザ名と関連付けられたパスワードを入力します。
- 新しいバージョンの ASDM が ASA 1000V にある場合、ASDM ランチャは自動的に新しいバージョンをダウンロードし、ASDM を起動する前に現在のバージョンをアップデートするようにユーザに要求します。
- メイン ASDM ウィンドウが表示されます。
- 

## Java Web Start アプリケーションによる ASDM の起動

Java Web Start アプリケーションから ASDM を起動するには、次の手順を実行します。

### 前提条件

「ASDM への初回の接続」(P.2-4) に従って Java Web Start アプリケーションをダウンロードします。

### 手順の詳細

- 
- ステップ 1** Java Web Start アプリケーションを起動します。
- ステップ 2** 表示されたダイアログボックスに従って、任意の証明書を受け入れます。Cisco ASDM-IDM Launcher が表示されます。
- ステップ 3** ユーザ名とパスワードを入力し、[OK] をクリックします。工場出荷時のデフォルト設定の場合、これらのフィールドを空白のままにしておきます。HTTPS 認証が設定されていない場合、ユーザ名はなしで、デフォルトが空白である **イネーブル** パスワードを使用して、ASDM へのアクセスを取得できます。HTTPS 認証がイネーブルの場合、ユーザ名と関連付けられたパスワードを入力します。
- メイン ASDM ウィンドウが表示されます。
-

## デモ モードでの ASDM の使用

アプリケーション ASDM Demo Mode を別途インストールして使用すると、実デバイスを使用せずに ASDM を実行できます。このモードでは、次の操作を実行できます。

- 実デバイス接続時と同じように、ASDM から設定と選択した監視タスクを実行する。
- ASDM インターフェイスによる ASDM または ASA 1000V 機能のデモを実行する。
- リアルタイムの syslog メッセージを含む、シミュレーションされたモニタリングデータとログインデータを取得する。表示データはランダムに生成されますが、実デバイスに接続しているような体験ができます。

このモードでは、次の機能はサポートされません。

- GUI に表示されたコンフィギュレーションに加えた変更内容の保存
- ファイルまたはディスクの操作
- 履歴モニタリングデータ
- 非管理ユーザ
- 次の機能
  - [File] メニュー
    - Save Running Configuration to Flash
    - Save Running Configuration to TFTP Server
    - Save Running Configuration to Standby Unit
    - Save Internal Log Buffer to Flash
    - 内部ログ バッファのクリア
  - [Tools] メニュー
    - Command Line Interface
    - ping
    - File Management
    - Update Software
    - File Transfer
    - Upload Image from Local PC
    - System Reload
  - ツールバー / ステータスバー > [Save]
  - [Configuration] > [Interface] > [Edit Interface] > [Renew DHCP Lease]
  - フェールオーバー後のスタンバイ デバイスの設定
- コンフィギュレーションの再読み込みが発生する操作。再読み込みが行われると GUI が元のコンフィギュレーションに戻ります。
  - [Interface] ペインの変更
  - [NAT] ペインの変更
  - [Clock] ペインの変更

ASDM のデモ モードを実行するには、次の手順を実行します。

- 
- ステップ 1** ASDM Demo Mode インストーラの `asdm-demo-version.msi` を次の場所からダウンロードします。  
<http://www.cisco.com/cisco/web/download/index.html>
- ステップ 2** インストーラをダブルクリックして、ソフトウェアをインストールします。
- ステップ 3** デスクトップ上の Cisco ASDM Launcher のショートカットをダブルクリックするか、または、[Start] メニューから開きます。
- ステップ 4** [Run in Demo Mode] チェックボックスをオンにします。  
[Demo Mode] ウィンドウが表示されます。
- 

## ASA 1000V ファイルストレージ

OVF テンプレート ファイルの展開時にホスト サーバのシステム、コンフィギュレーションおよびイメージ ファイルを維持するために、2 GB のストレージが割り当てられます。これらのファイルは ASA 1000V 上の `disk0` にあります。

## コンフィギュレーションの処理

この項では、コンフィギュレーションを処理する方法について説明します。ASA 1000V は、スタートアップ コンフィギュレーションと呼ばれるコンフィギュレーションをテキスト ファイルからロードします。このファイルは、デフォルトでは隠しファイルとして内部フラッシュ メモリに常駐しています。ただし、ユーザはスタートアップ コンフィギュレーションに異なるパスを指定することができます (詳細については、第 32 章「ソフトウェアとコンフィギュレーションの管理」を参照してください)。

コマンドを入力すると、メモリ上の実行コンフィギュレーションに対してだけ変更が適用されます。変更内容をリポート後も維持するには、実行コンフィギュレーションを手動でスタートアップ コンフィギュレーションに保存する必要があります。

この項は、次の内容で構成されています。

- 「コンフィギュレーションの変更の保存」 (P.2-7)
- 「スタートアップ コンフィギュレーションの実行コンフィギュレーションへのコピー」 (P.2-8)
- 「コンフィギュレーションの表示」 (P.2-8)
- 「コンフィギュレーション設定のクリアと削除」 (P.2-9)
- 「テキスト コンフィギュレーション ファイルのオフラインでの作成」 (P.2-9)

## コンフィギュレーションの変更の保存

実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションに保存するには、次のコマンドを入力します。

コマンド	目的
<code>write memory</code>	実行中の設定をスタートアップ コンフィギュレーションに保存します。
例： <code>hostname# write memory</code>	(注) <code>copy running-config startup-config</code> コマンドは、 <code>write memory</code> コマンドに相当します。

## スタートアップ コンフィギュレーションの実行コンフィギュレーションへのコピー

次のいずれかのオプションを使用して、新規スタートアップ コンフィギュレーションを実行コンフィギュレーションにコピーします。

コマンド	目的
<code>copy startup-config running-config</code>	スタートアップ コンフィギュレーションを実行コンフィギュレーションとマージします。マージによって、新しいコンフィギュレーションから実行コンフィギュレーションに新しいコマンドが追加されます。コンフィギュレーションが同じ場合、変更は発生しません。コマンドが衝突する場合、またはコマンドが ASA 1000V の実行に影響を与える場合、マージの影響はコマンドによって異なります。エラーが発生することも、予期できない結果が生じることもあります。
<code>reload</code>	ASA 1000V をリロードします。その結果、スタートアップ コンフィギュレーションがロードされ、実行コンフィギュレーションが破棄されます。
<code>clear configure all</code> <code>copy startup-config running-config</code>	スタートアップ コンフィギュレーションをロードし、実行コンフィギュレーションを破棄します。リロードは不要です。

## コンフィギュレーションの表示

実行コンフィギュレーションとスタートアップ コンフィギュレーションを表示するには、次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
<code>show running-config</code>	実行コンフィギュレーションを表示します。
<code>show running-config command</code>	特定のコマンドの実行コンフィギュレーションを表示します。
<code>show startup-config</code>	スタートアップ コンフィギュレーションを表示します。



## コンフィギュレーション設定のクリアと削除

設定を消去するには、次のいずれかのコマンドを入力します。

コマンド	目的
<b>clear configure</b> <i>configurationcommand</i> [ <i>level2configurationcommand</i> ]  <b>例:</b> hostname(config)# clear configure aaa	指定されたコマンドのすべてのコンフィギュレーションをクリアします。コマンドの特定バージョンのコンフィギュレーションだけをクリアする場合は、 <i>level2configurationcommand</i> に値を入力します。  たとえば、すべての <b>aaa</b> コマンドのコンフィギュレーションをクリアするには、次のコマンドを入力します。  hostname(config)# <b>clear configure aaa</b>  <b>aaa authentication</b> コマンドのコンフィギュレーションだけをクリアするには、次のコマンドを入力します。  hostname(config)# <b>clear configure aaa authentication</b>
<b>no</b> <i>configurationcommand</i> [ <i>level2configurationcommand</i> ] <i>qualifier</i>  <b>例:</b> hostname(config)# no nat (inside) 1	コマンドの特定のパラメータまたはオプションをディセーブルにします。この場合、 <b>no</b> コマンドを使用して、 <i>qualifier</i> で特定されるコンフィギュレーションを削除します。  たとえば、特定の <b>nat</b> コマンドを削除するには、次のように、それを一意に識別するのに十分なコマンドを入力します。  hostname(config)# <b>no nat (inside) 1</b>
<b>write erase</b>  <b>例:</b> hostname(config)# write erase	スタートアップ コンフィギュレーションを消去します。
<b>clear configure all</b>  <b>例:</b> hostname(config)# clear configure all	実行コンフィギュレーションを消去します。

## テキスト コンフィギュレーション ファイルのオフラインでの作成

このマニュアルでは、ASA 1000V を設定するための CLI の使用方法について説明しています。コマンドを保存すると、変更内容はテキスト ファイルに書き込まれます。一方、CLI を使用する代わりに、テキスト ファイルを PC で直接編集して、コンフィギュレーション モードのコマンドライン プロンプトから、コンフィギュレーションを全部または 1 行ずつペーストすることができます。また、ASA 1000V の内部フラッシュ メモリにテキスト ファイルをダウンロードできます。コンフィギュレーション ファイルを ASA 1000V にダウンロードする方法の詳細については、[第 32 章「ソフトウェアとコンフィギュレーションの管理」](#)を参照してください。

ほとんどの場合、このマニュアルで説明するコマンドには、CLI プロンプトが先行します。次の例では、CLI プロンプトは「hostname(config)#」です。

```
hostname(config)# hostname a
```

コマンドの入力が要求されないテキスト コンフィギュレーション ファイルの場合は、プロンプトは次のように省略されます。

```
hostname a
```

テキスト コンフィギュレーション ファイルのフォーマットの詳細については、付録 A 「コマンドライン インターフェイスの使用」を参照してください。

## 接続に対するコンフィギュレーションの変更の適用

コンフィギュレーションに対してセキュリティ ポリシーの変更を加えた場合は、すべての新しい接続で新しいセキュリティ ポリシーが使用されます。既存の接続では、その接続が確立された時点で設定されていたポリシーの使用が続行されます。すべての接続が新しいポリシーを確実に使用するように、現在の接続を解除し、新しいポリシーを使用して再度接続できるようにします。接続を解除するには、次のいずれかのコマンドを入力します。

コマンド	目的
<pre>clear local-host [ip_address] [all]</pre> <p><b>例：</b> hostname(config)# clear local-host all</p>	<p>このコマンドは、接続制限値や初期接続の制限など、クライアントごとのランタイム ステートを再初期化します。これにより、このコマンドは、これらの制限を使用しているすべての接続を削除します。現在のすべての接続をホスト別に表示するには、<b>show local-host all</b> コマンドを参照してください。</p> <p>引数を指定しないと、このコマンドは、影響を受けるすべての <b>through-the-box</b> 接続をクリアします。<b>to-the-box</b> 接続もクリアするには（現在の管理セッションを含む）、<b>all</b> キーワードを使用します。特定の IP アドレスへの、または特定の IP アドレスからの接続をクリアするには、<b>ip_address</b> 引数を使用します。</p>
<pre>clear conn [all] [protocol {tcp   udp}] [address src_ip[-src_ip] [netmask mask]] [port src_port[-src_port]] [address dest_ip[-dest_ip] [netmask mask]] [port dest_port[-dest_port]]</pre> <p><b>例：</b> hostname(config)# clear conn all</p>	<p>このコマンドは、すべての状態の接続を終了します。現在のすべての接続を表示するには、<b>show conn</b> コマンドを参照してください。</p> <p>引数を指定しないと、このコマンドはすべての <b>through-the-box</b> 接続をクリアします。<b>to-the-box</b> 接続もクリアするには（現在の管理セッションを含む）、<b>all</b> キーワードを使用します。送信元 IP アドレス、宛先 IP アドレス、ポート、プロトコルに基づいて特定の接続をクリアするには、必要なオプションを指定できます。</p>
<pre>clear xlate [arguments]</pre> <p><b>例：</b> hostname(config)# clear xlate</p>	<p>このコマンドは、ダイナミック NAT セッションをクリアします。スタティック セッションは影響を受けません。その結果、これらの NAT セッションを使用するすべての接続が削除されます。</p> <p>引数を指定しないと、このコマンドはすべての NAT セッションをクリアします。使用可能な引数の詳細については、コマンド リファレンスを参照してください。</p>